

病院機能評価機構の 認定を受けました

平成29年11月13日、病院機能評価機構から病院機能評価3rdGの認定審査に合格したという通知を受け取りました。

昨年3月末に第一回目の機能評価受審委員会を開催したときから換算すると約1年8ヶ月間の道のりでした。

病院機能評価については過去に一度認定を受けていましたが、当時更新しなかったため、今回は初受審という形で取り組みました。

まずは病院の分野を4つの領域に分けたチーム編成から始まり、自己評価の作成、提出を行いました。またケアプロセスと呼ばれる外来から入院へ他院まで一連の業務確認については対策チームを診療科、病棟を中心に作成し、皆夜遅くまで練習していました。

同年2月に訪問審査がありました。病院機能評価機構からサバイヤーを招き、整備したマニュアルや運用ルールを確認されました。ケアプロセスにおいても外科系・内科系とそれぞれの診療科がサバイヤーからの質問について実例を踏まえながら説明し、訪問審査を終了しました。訪問審査の結果としては数点の指摘・改善が必要と言われた点については全診療科、病棟を巻き込んだので

運用改善の周知、マニュアルの整備を行い、11月13日、正式に認定の通知を受けました。

病院機能評価の認定を受けたから終わりというわけではなく、これから医療の質向上に向けてのスタートラインに立ったと考えます。

今後も更なる医療の質向上に取り組み、地域の期待と信頼に応えられる、より良き病院作りを全職員で行っていききたいと思えます。

【病院機能評価委員会事務局 河野】



市民健康講座

「後悔しない～家族を助ける心肺蘇生法」

講師 弥富 祐樹 看護係長 (救急看護認定看護師)
鹿又亜由紀 看護係長 (新生児集中ケア認定看護師)
須藤 千恵 看護師 (集中ケア認定看護師)
岡田 広子 看護師 (小児救急看護認定看護師)

平成29年9月23日(土)にイトーヨーカ堂さまの催事場をお借りして、「後悔しない～家族を助ける心肺蘇生法」を当院の認定看護師(救急看護・新生児集中ケア・集中ケア・小児救急看護)4名が講師となり開催しました。

講座では、家族や身近な方に何か起こった時、「受診する」、「救急車を呼ぶ」以外に出来る事があり、その方法を知ってもらうひとつの機会として企画し、会場には38名の参加者があり盛況となりました。

認定看護師によるクイズを織り交ぜた講演と、レザシアンという救命訓練専用人形を使った胸骨圧迫の方法と、AED(自動体外式除細動器)の使用法を実演しました。実演後は、参加者への実技指導を行い、小さなお子さんから高齢者まで幅広い年齢の方々が救急処置体験をされました。

今回はイトーヨーカ堂さまのご協力をいただき商業施設での開催となり、たくさんの方に見て頂くことが出来ました。今後も、多くの方に救急処置を普及する活動を行ってまいります。

【事業課】



平成29年9月1日(金) 13時から北見市立南小学校グラウンドを会場とした災害訓練に参加しました。北見市地域防災計画に基づき、各防災関係機関の38機関が密接な連携を図り、効果的な応急対策訓練と、地震災害による想定を基に各種訓練を実施し、地域住民の防災・減災の普及及び防災関係機関と地域住民との協力体制の確立を図る事を目的としています。当院には救護班は3班あり災害時、医師1名、看護師3名、主事2名を迅速に出動できる体制になっています。

今回の訓練では、救護所となる工アークの設置、医療資機材の設置をし、地震によって発生した、自衛隊による家屋倒壊救出訓練、警察による事故車両救出訓練で救出された患者が応急救護所へ搬送。救護班は重症及び中等症患者を担当し2次トリアージと応急処置を行い、重症患者1名を医療機関へ迅速に対応しました。北見市救急法赤十字奉仕団は軽傷患者を三角巾などで応急処置を行い、役割分担・連携を取りながら活動しました。消防は小学校校舎への放水としごき車を使った避難訓練を行い、総合訓練を終える事が出来ました。

平成29年度 北見市防災総合訓練に参加して



【事業課】
事後ではこれまで、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの被災地救護を行ってきました。また、昨年の北海道台風災害においても救護支援をさせていただきました。

今後も赤十字病院の使命である災害救護活動及び災害拠点病院として地域住民のために安心の出来る医療の提供を、各防災機関と連携してオホーツク地域のみならず、全国の被害地に対し災害対応して参ります。



■森本院長先生質問コーナー

診療科：内科・外科・消化器内科・呼吸器内科・
循環器内科・整形外科・リハビリテーション科

趣味は何ですか？

——湖で釣り。釣れなければ…潔く自然を楽しむ

座右の目は何ですか？

——健康第一

これだけは譲れない「こだわり」は何ですか？

——体力の続く限り自転車通勤

特技は何ですか？

——後ろ向きに走れる（京大でアメフト選手でした!）



北見北斗病院



〒090-0045

北見市北5条西1丁目6番地

TEL(0157) 23-3225

院長：森 本 一 郎

出身大学：札幌医科大学医学部
(平成7年卒)

出身地：札幌市

所属学会：日本内科学会 消化器病学会
消化器内視鏡学会

資格：医学博士

専門分野：消化器内科

〈診療受付時間のご案内〉

～内科・外科・消化器内科・呼吸器科～

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前8:30～12:30	○	○	○	○	○	○	再来予約

～人工透析～

午前9:00～12:30	○	×	○	×	×	○	×
午後1:00～1:30	○	×	○	×	○	○	×

休診：日曜・祝日

《1、自院紹介》

当院は療養病床64床、介護病床11床の病院です。CT、人工呼吸器、胃カメラ、大腸カメラを備え、胃や大腸の内視鏡手術も行っています。糖尿病、腎臓病、喘息、風邪などの一般外来や、急ぎの健康診断、特定健診も受付けています。急な胃カメラ検査や高齢者の、脱水、肺炎などで急な入院が必要な場合も、すぐに対応できる地域の皆様の病院を目指しています。また、先代の石田院長が道東の透析治療のパイオニアでしたので現在も入院透析を積極的に行っています。

《2、医療連携について》

当院は北見赤十字病院の目の前に立地し密接に連携しています。北見赤十字病院で急性期治療を終えた患者様が当院でのリハビリを経て自宅に戻れるように、リハビリ科、整形外科を新設しました。更に、時代は、これまでの医療機関内での連携を超えて、行政、市民、施設までも含めて「予防から退院後まで」シームレスにつなげるように変わってきていると感じています。

《3、最近の出来事から》

最近、日本茶に凝っています。紅茶と違って低い温度で淹れると甘く美味しいです。ほっこり秋の夜長を楽しんでいます。

登 録 医 紹 介

■本田院長先生質問コーナー

診療科：糖尿病内科・内視鏡内科



《自己紹介》

北見の小林病院で内科医として平成15年から内科医長・同副部長・部長を約14年務め、2017年10月に医療機関が少ない北光地域の末広町に新規開院を致しました。

今後は地域のかかりつけ医としてプライマリーケアに力をいれていきたいと思っております。

小林病院での勤務を通じて、医療機関の連携の大切さを実感しており、今後必要に応じ患者さんにとって、最適な医療サービスが出来るよう目指しております。



本田内科クリニック



〒090-0826

北見市末広町665-3

TEL(0157) 33-5895

院長：本 田 光 則

出身大学：旭川医科大学

(平成11年卒)

大学院医学研究科卒業

出身地：旭川市

〈診療受付時間のご案内〉

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前9:00～12:00	○	○	×	○	○	○	第1・3予約

午後1:30～4:30	○	○	×	○	○	○	第1・3予約
-------------	---	---	---	---	---	---	--------

休診：水曜・祝日、第2・4・5日曜日

北見赤十字病院 第一小児科部長 佐藤智信

当科は1955年（昭和10年）、当院が野付牛療院として開院した当時から診療を開始していたという長い歴史を有しています。平成5年の旧南館新築を機に小児病棟は50床を備え、旧北館3階に産科病棟と未熟児センター組んでいます。ハイリスクな妊娠に対しては母体搬送を積極的に受け入れ、ベビーにとってより良いお産に努める一方、出生後の管理体制の充実によりその治療成績は全国レベルの上位と肩を並べる結果を残しています。

さらに、当院に平成4年に併設された救命救急センターの一員として、小児科独自の毎日のローテーションを組む、来院するほとんどすべての小児科患者さんに対して初期救命治療から高度集中治療までの三次救急にも積極的に取り組んでいます。平成28年の診療実績としましては、年間外来患者延べ人数18,192人(平均小児

医療技術の進歩と普及により、小児・新生児への質の高い医療サービスが可能になった一方で、世の少子化の影響やワクチン接種を主体とする予防医学へのシフトなどにより、当科の科外来数74.1人/日、年間入院患者実数1,290人、救急外来受診患者延べ人数995人、年間分娩数26人、年間低出生体重児(2,500g未満)129人でした。

年間入院患者数は経年的に減少傾向にはあります。平成26年の新病院移転後、小児病棟は30床、周産期母子センターのNICUは6床、GCU12床の規模で稼働しておりますが、当科はオホーツク地域全体における小児二次・三次医療を行う場として、まさに最後の砦とも言うべき役割を担い日々の診療に当たっております。

安心して子供を産み育てる医療環境を提供することが小児科医の役割であり使命であると考えています。慢性的な小児科医不足に伴う過酷な勤務状況など、早急には改善できない問題も抱えておりますが、笑顔で当院を後にする子供達に癒されつつ日々の診療をこなしています。普段、患者さんのかかりつけ医として当科をバック

当院は北見市で唯一の小児科を有する総合病院であり、北見市はもとより近隣市町村、ほぼオホーツク管内全域の病気の子供たちが通院あるいは入院をしています。

当科は一般的な急性疾患・慢性疾患はもとより、高度の医療を必要とする重症なものに対しても、大学病院及び他科と連携を密にとることで、より、殆ど全ての疾患に対し、受け入れる体制が整っています。実際、周辺医療機関より多くの紹介患者さんを24時間体制で受け入れている管内随一の小児医療機関となっています。

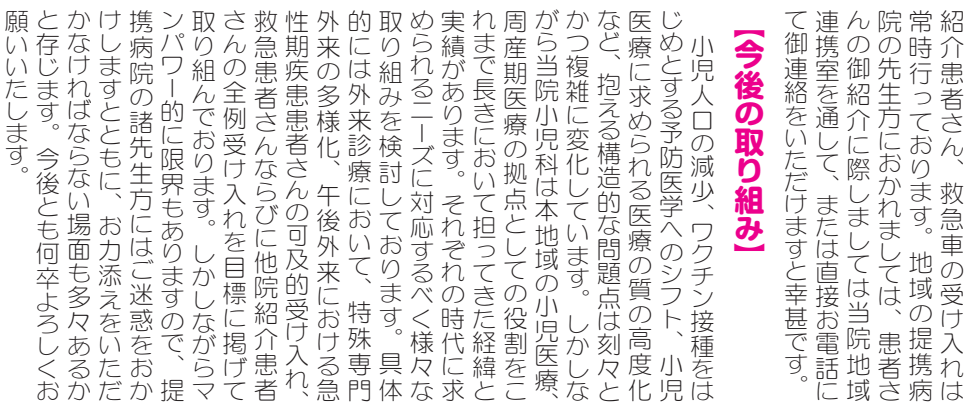
また、各種専門外来をおくことにより、慢性疾患の管理及び退院後の長期的なフォローアップを可能にしています。新生児医療では、周産期母子センターが平成5年に開設され、ハイ

リスクな妊娠、分娩及び新生児の集中治療を産科ドクターと協力して取り組んでいます。ハイリスクな妊娠に対しては母体搬送を積極的を受け入れ、ベビーにとってより良いお産に努める一方、出生後の管理体制の充実によりその治療成績は全国レベルの上位と肩を並べる結果を残しています。

さらに、当院に平成4年に併設された救命救急センターの一員として、小児科独自の毎日のローテーションを組み、来院するほとんどすべての小児科患者さんに対して初期救命治療から高度集中治療までの三次救急にも積極的に取り組んでいます。平成28年の診療実績としましては、年間外来患者延べ人数18,192人（平均小児科外来数74.1人/日）、年間入院患者実数1,290人、救急外来受診者延べ人数995人、年間分娩数426人、年間低出生体重児（2,500g未満）129人でした。

安心して子供を産み育てる医療環境を提供することが小児科医の役割であり使命であると考えています。慢性的な小児科医不足に伴う過酷な勤務状況など、早急には改善できない問題も抱えておりますが、笑顔で当院を後にする子供達に癒されつつ日々の診療をこなしています。普段、患者さんのかかりつけ医として当科をバックアップしてくださる地域の提携病院の先生方と、より一層の連携を深めつつも、当科でなければ提供できない医療サービスを模索しながら日々の診療に取り組んでおります。

平成29年度の常勤医師数は7人、嘱託医師1人(内、日本小児科学会専門医3人)で診療に当たっております。月曜日から金曜日までの午前は急性期疾患患者さんおよび他院からの紹介患者さんの診療を行い、午後は原則として予防接種や当院で出生した患者さんの乳児検診、そして心臓外来、内分泌外来、腎臓外来、血液外来、神経外来、免疫・アレルギー外来、発達フォローアップ外来といった特殊専門外来を、予約患者さんを対象に行っています。もちろん緊急を要する患者さんや他院からの急性期疾患の



紹介患者さん、救急車の受け入れは常時行っております。地域の提携病院の先生方におかれましては、患者さんの御紹介に際しましては当院地域連携室を通して、または直接お電話にて御連絡をいただきますと幸甚です。

小児人口の減少、ワクチン接種をはじめとする予防医学へのシフト、小児医療に求められる医療の質の高度化など、抱える構造的な問題点は刻々とかつ複雑に変化しています。しかしながら当院小児科は本地域の小児医療、周産期医療の拠点としての役割をこれまで長きにおいて担ってきた経緯と実績があります。それぞれの時代に求められるニーズに対応するべく様々な取組を検討しております。具体的には外来診療において、特殊専門外来の多様化、午後外来における急性期疾患患者さんの可及的受け入れ、救急患者さんならびに他院紹介患者さんの全例受け入れを目標に掲げて取り組んでおります。しかしながらマンパワー的に限界もありますので、提携病院の諸先生方にはご迷惑をおかけしますとともに、お力添えをいただかなければならない場面も多々あるかと存じます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

第二脳神経外科 副部長
タッカー アダム
平成29年11月20日～

10月6日に本館1階アトリウム、本館4階小児科病棟にて、院内ボランティアコンサートを開催しました。今回はホスピタルクラウン2名の方による、パフォーマンスを頂きました。小児病棟では参加した一人一人の子ども達にバルーンアートを作ってくれた他、トランプやぬいぐるみを使ったマジックも披露してくれました。デイルームにてみんなでパフォーマンスを見ているうちに仲良くなった患者さん同士が、コンサート終了後も仲良く遊んでいる姿を見かけました。

アトリウムではバルーンアートやディアボロ（中国ゴマ）と言う高速回転したコマを2本のスティックの先に付いた紐を使って扱うパフォーマンスを披露してくれました。圧巻のパフォーマンスに参加頂いた方からも歓声が沸いていました。

当院で開催するボランティアコンサートは地域の方々も参加頂けますので、コンサート開催時には皆さん足を運んで頂ければと思います。

当院では今後とも院内でのコンサートを定期的開催できればと考えています。もし地域の医療機関の皆様の中でもご協力をして頂ける方がいればボランティア事務局（医療福祉課内）までご連絡いただければと思います。



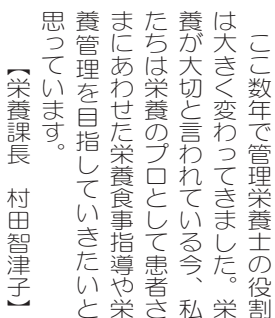
今回は当院の管理栄養士の仕

今回は当院の管理栄養士の仕事内容とその役割について紹介します。給食業務は平成18年より全面委託となり、給食に関することは委託会社と連携をとり実施しています。

当院の管理栄養士の主な仕事は、栄養食事指導や入院患者さまの栄養管理です。

栄養食事指導の対象は当院に通院・入院している患者さまと

地域連携をしている病院の患者
 さまで、月々金までの午前・午
 後2枠(いずれも予約制)担当と
 内科外来専属担当の常時2名体
 制で実施しています。栄養管理
 は入院患者さま全員を対象に、
 病棟担当制をとっています。担
 当者は入院3日以内に病棟へ訪
 問し、嗜好を含めた栄養状態等



2017年9月9日(土)当院北館大会議室でBFH(Baby Friendly Hospital:赤ちゃんにやさしい病院)講演会を開催いたしました。今回は『Positive Parenting ProgramトリプルP前向き子育て支援〜ちょっとした工夫で楽しく子育てできる4つの方法と17の技術』をテーマに、当院のトリプルPファシリテーター3名が講師を務めました。トリプルPとはオーストラリアで開発され、世界25カ国で実施されている親向けの子育て支援プログラムです。子どもの発達を促しつつ、親子のコミュニケーション、子どもの問題行動への対処法など、それぞれの親子に合わせた方法に変えていくための考え方や具体的な子育て技術を学ぶものです。今回は妊婦さんや子育て中のお母様、医療関係者を合わせ30名以上の参加をいただきました。講演会を終えて、男性の方から、「新米パパへのトリプルP勉強会を開催していただきたい」と貴重なご意見もいただきました。共働きの現代において子育ては母親だけではなく、家族の協力がが必要です。はじめて男性の参加もあり土曜の午後のひととき、子育てを考える貴重な時間を過ごすことができました。講演会座長、水沼副院長から今後子どもどもの自尊心を育み、育児を楽しく前向きに行えるようにTriple Pを活用していただけることを期待して講演会を結びました。



第2回オホーツク緩和ケア講演会終了報告

9月1日(金)18:00からミントホールにて、京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授 田村恵子先生に『スピリチュアルを拓くー臨床・研究・教育の観点からー』と題して講演いただき、130名を超える方にご聴講いただく事が出来ました。

田村先生は日本で第1号となる『がん看護専門看護師』であり、実践・教育と多方面でご活躍されていらっしゃいます。今回の講演では、現代のスピリチュアルとは何か、患者の思いを聞きチームで共有する事の大切さ、その方法について詳しくお話いただき、参加者から、「参加してよかった。」「今まで、ほとんど緩和ケアの知識はなかったが、大変興味深く聴講する事が出来た」などの意見が寄せられました。

田村先生の温かい人柄に触れて、スタッフも大感激となる講演会でした。

当院でも開催しております、E L N E C-Jの開発者でもあります。興味のある方は是非来年以降のE L N E C-Jを受講していただければと思います。2018年度の開催予定は9月中頃を予定しております。

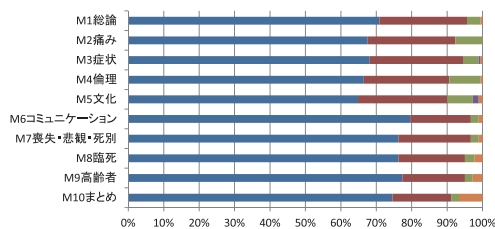


ELNEC-J開催報告

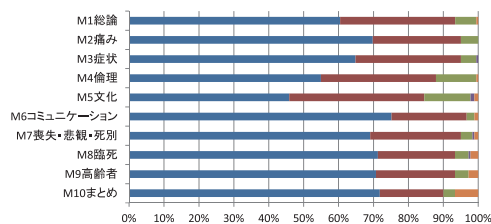
この6年間で、研修修了された方は182名にも及びました。毎年、同じ内容のアンケートを取らせていただいております。今回は、182名の方からいただいたアンケート集計を掲載させていただきます。今後も、開催していく予定です。とてもアットホームな研修会ですので是非ご参加下さい。

第1～6回 北見赤十字病院 ELNEC-J in 北見参加者アンケート集計
1日目モジュール1～5 参加者182名 回収率100% 2日目モジュール6～10 参加者181名 回収率100%

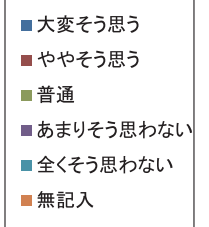
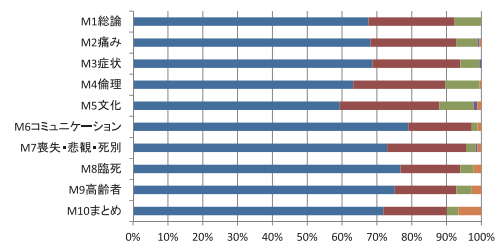
① 講義の内容はわかりやすかったですか？



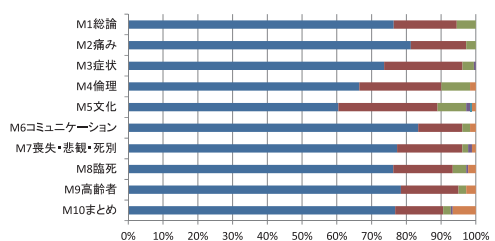
② 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながりましたか？



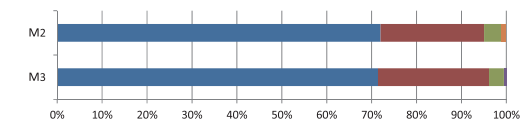
③ 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか？



④ 講義の内容に関心・興味がもてましたか？

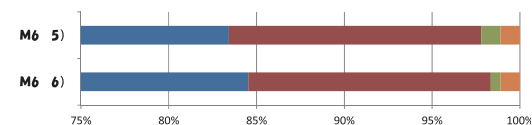


⑤ ケーススタディは講義の内容を理解するうえで参考になりましたか？ (M2, M3のみ)



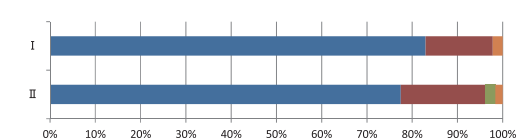
⑥ ロールプレイについて (M6のみ)

M6 5) 講義の内容はロールプレイを行う上で参考になりましたか？
M6 6) ロールプレイは今後のコミュニケーションに役立つものでしたか？



⑦ 全体について

I. 本プログラムを受講して、「エンド・オブ・ライフ・ケア」の重要性が理解できましたか？
II. 本プログラムの内容は、あなたの期待をどの程度満たしましたか？



Ⅲ. プログラム全体や配布資料についてなど、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- * 2日間、講義もわかりやすく充実した内容でした。配付資料もまとまっていて大切にに使わせていただきたいと思います。ありがとうございました。
- * 大変勉強と刺激になりました。ありがとうございました。明日から頑張りたいと思います。
- * 2日間大変興味深く学ばせていただきました。特に痛みの意味は各々違うため、緩和の程度も各々違うところから、まず患者さんの思いをよく知ることが大切と思いました。また、日々患者のそばにいるNSになりたいと思います。
- * ロールプレイ、患者さん役を通して、何から話してよいか分からない、関係性が築けていない中では思いが表現出来ないと言うことを実感しました。この学習で学んだことを生かして行きたいです。
- * 死に向かっていく患者様とそのご家族、そして自分自身とどう向き合うかを考えたり、コミュニケーションスキルを振り返るスキルになりました。資料もきれいで、お茶・お菓子も充実していて、快適に参加することが、できました。講師、スタッフの皆さん、ありがとうございました。高齢者のエンド・オブ・ライフケアの研修にも参加してみたいです。
- * ロールプレイを行って、自分はやっぱり沈黙が苦手と実感しました。また、他の方との関わり方を見て、コミュニケーションの大切さを改めて実感しました。
- * 2日間の研修ありがとうございました。資料もファイリングされていて、準備も大変だったと思います。エンド・オブ・ライフケアについて全てをすぐには身につけることが厳しいと思うが、資料で振り返りながら自分のものにしていけたら…と思います。
- * 講義だけでなく、グループワークやロールプレイは他の方の意見を聞くことができたりして、良い体験となりました。ありがとうございました。
- * 緩和ケア、エンド・オブ・ライフについて基本から改めて学ぶことができて良かったです。同じ職場の人にも是非進めたい、共有したいと思いました。ありがとうございました。
- * 長時間に及ぶプログラムでしたが、現在自分に必要な知識であるためか、あまり苦痛なく聞くことが出来ました。ありがとうございました。
- * 自分の死生観を知る。まずは自分をよく知ることが大切だと思いました。自分の傾向を知ることで、患者・家族の価値観を自分のものさしではからず、ありのまま受け止められると思いました。ここ何年かで、癌患者が増えていて、エンド・オブ・ライフケアでも特に予後数ヶ月の患者の入院が多くなっています。今回の学びはELNEC-J受講しているスタッフと共に更に発展させていきたいと思います。ありがとうございました。
- * 2日間、本当にありがとうございました。GWやロールプレイを通して学びを深めることが出来ました。また、ロールプレイでは、自己の癖も知ることが出来たので、今後に生かしていきたいです。がん看護にもともと興味があったので、さらに学びを深めていきたいです。
- * 2日間本当にありがとうございました。今日までの看護のふりかえりが出来、自分を見直す事が出来ました。明日からの看護をより良い物・時間になる様に繋げて行きたいと思います。本当にありがとうございました。楽しく学べました。他の研修も受けてみたいと思っています。又、認知のELNECや学べる場があることを教えて欲しいです。

平成29年度 “がん”市民公開講座について

平成29年10月26日(木) 18:30～19:30の1時間、多目的ホールミントにて『がんについて考える 早期発見・早期治療～健診・検診の上手な受け方～』を開催いたしました。健診管理センターの松沼保健師長が「健診・がん検診の受け方」と題し、健診と検診の違いや、要精密検査と言われた時の受診の必要性などを、松永第四外科部長からは「当院健診で見つかったがんの症例～症状はなくても潜むがん～」と題し、当院の検診で早期発見された症例を何例か上げ、紹介しながら早期治療のメリットなどを解りやすく、お話いただきました。

今回の講座への参加者は85名で、その内64名の方にアンケートのご協力をいただきました。参加された方の30～60代の方が全体の70%と多く、職業別

では、会社員・自営業の方が32%と全対の1/3を占めていました。この講座をきっかけに、健診・がん検診の受診率が低いこの地域で、多くの方に健診(検診)を受けていただければ、幸いです。

講座をお聞きになれなかった方のために、当院本館1階にあります【からだの図書室】にて、DVDとハンドアウトを用意してあります。貸し出しは出来ませんが、その場で再生してご覧いただくことが出来ます。ご興味のある方は、月・水・金の9:00～14:00、火・木の9:00～16:30でからだの図書室へお越し下さい。

昨年度から開催しているがんの市民公開講座は、まだ、がんに罹患していない30～60代の働き盛りの方にも、ご聴講いただきたいと『がんについて考える』というキーワードで企画、開催しております。今後も、継続して市民の方にわかりやすくお伝え出来るように、努力してまいりますので、是非ご聴講下さい。

E-mail: fonkolo@kitani.jp